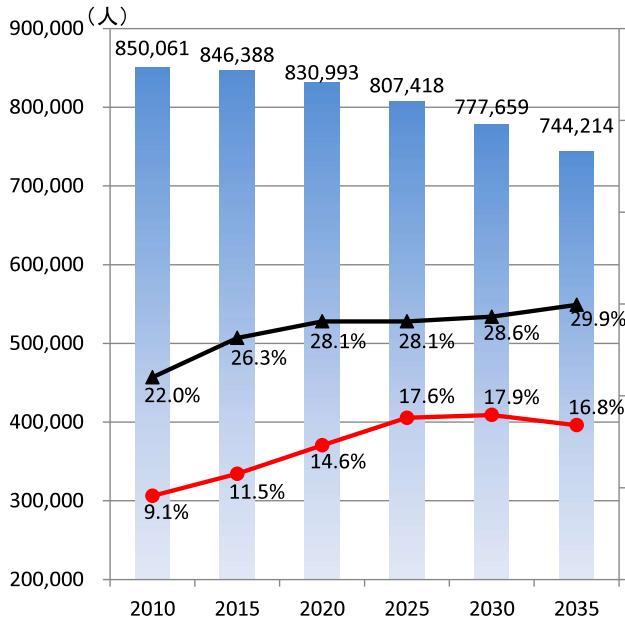


泉北ニュータウン再生に向けた
まちづくりについて

平成31年3月17日 堺市

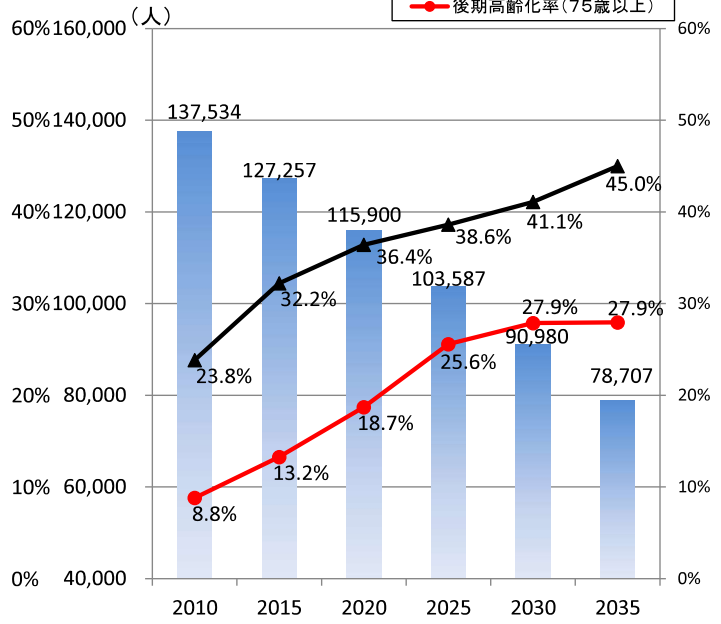
(泉ヶ丘駅周辺地域)

■堺市



[引用:堺市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画]

■泉北ニュータウン



[引用:泉北ニュータウン公的賃貸住宅再生計画]

- 堺市においては、多くの自治体と同様に人口減少や高齢化の傾向となっています。
- 泉北ニュータウンでも、同様の傾向となっています。

将来にわたって多世代が健康で安全・安心に住み続けられるまちづくりが必要です。

堺市における持続可能なまちづくりの取組

SDGs (Sustainable Development Goals)

「持続可能な開発目標」

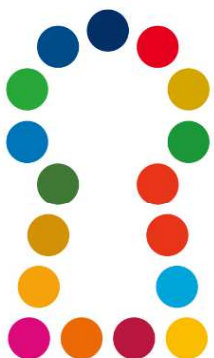
2015年9月に国連サミットで決められた国際社会共通の「17の目標」堺市は、2018年6月に「SDGs未来都市」に国から選定される

堺市 2030年のあるべき姿

社会

子育て・教育環境の充実
健康で活力のある生活の実現

誰一人取り残さない、持続可能なまちづくりの取組を
泉北ニュータウンから堺市全域へ展開、
日本全国の再生モデルに



笑顔あふれる 住み続けたいまち

SDGs未来都市・堺

Sustainable Development Goals Future City, SAKAI CITY

泉ヶ丘駅前地域活性化ビジョン（泉北ニュータウン再生府市等連携協議会策定）

活性化の目標

誰もが「ライブタウンセンター」の実現へ
誰もがいきいきと、住み、働き、学び、遊び、それぞれの立場で主役となれるまち

テーマ1
子育て

めざす将来像1 子育てと子育てのライブタウン泉ヶ丘



- ・子育てに適した安心できる住環境と、子育て世代でも働きやすい環境のまち
- ・自然豊かな環境の中で、のびのびと育つ教育環境を有するまち
- ・子どもや親が愉しむことができるまち

テーマ2
健幸

めざす将来像2 「健幸」を実現するライブタウン泉ヶ丘



- ・安全で快適な歩道や緑道、公園などで楽しみながら身体を動かし、健康に暮らせるまち
- ・大学や民間企業、地域などの連携によって、高水準で多様な健康・医療サービス等を受け、暮らし続けられるまち
- ・人とのつながりや生きがいを感じられるまち

テーマ3
創造

めざす将来像3 新たなコトが起こる・起こせるライブタウン泉ヶ丘



- ・教育、医療、健康等の機能集積を活かして、新たな価値を生み出すことができるまち
- ・芸術や文化等の多様な活動が始められ、新たな刺激や交流を生み出し、常に活力みなぎるまち

- 「ライブタウンセンター」とは、「Live(リブ:住む)」と「Live(ライブ:生きている)」の2つを合わせ、「ここで住み『いきいき』と活動できるセンター(中心)」という意味
- 「健幸」(ウェルネス)とは、「個々人が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むことのできるまち」という意味

泉ヶ丘駅前地域の取組展開イメージ



シンボルコア
泉ヶ丘や泉北ニュータウンの象徴となる本地域の「まちの顔」



ネクストコア1
教育、交流、防災機能等の将来ニーズに対応する拠点を想定



教育・健幸コア
教育・医療・研究機能を有し、『健幸』社会の実現に向けた拠点



ネクストコア2
市民のアクティビティの場等を導入する拠点を想定



子どもコア
子どもが一日中愉しめる遊びの拠点・親も楽しく子育てができる拠点



ネクストコア3
新産業や住宅、宿泊機能等の将来ニーズに対応する拠点を想定



パークライフコア
公園等で新たな価値とライフスタイルを創造・発信する拠点

新たな機能導入や価値創造に取組み、泉ヶ丘駅前地域全体を活性化

泉北ニュータウンの再生につなげます！

○ 将来考えられる問題

高齢化が進み、それにより、介護や医療の需要が急増すると推測されています。

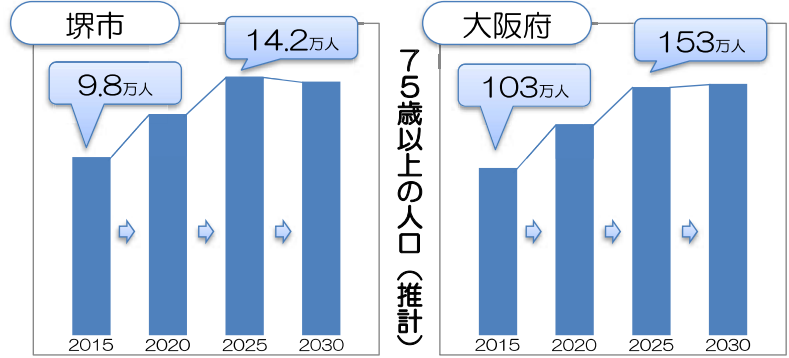
進展する超高齢社会

医療を必要とする人が増える

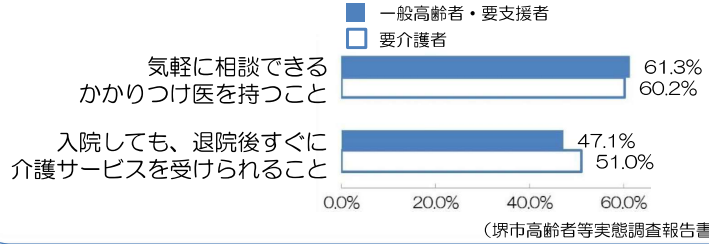
○ 求められる医療提供体制

限られた医療資源で最大の効果を生み出す

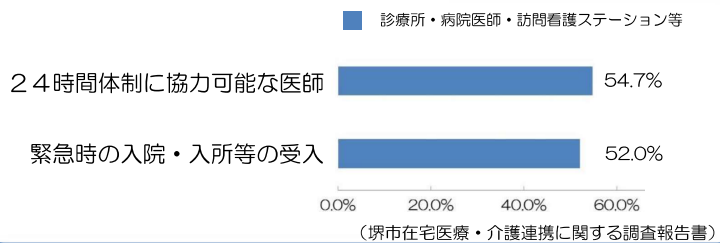
医療機関の役割分担・連携



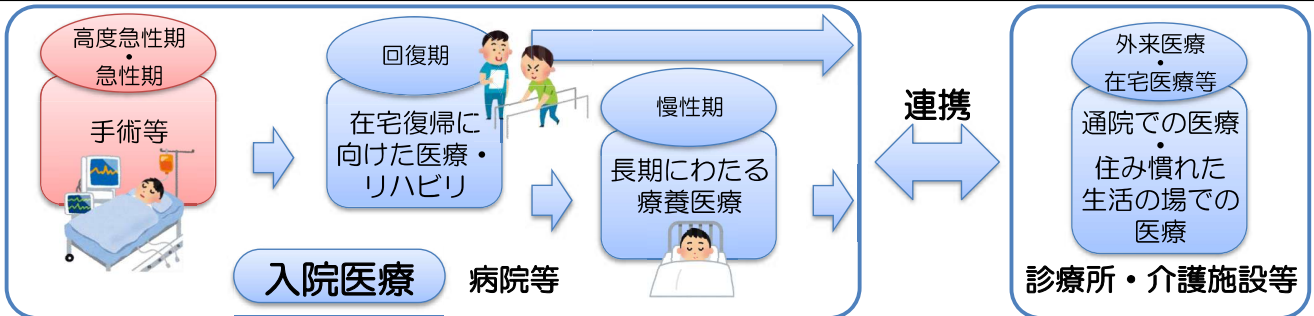
自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なこと



在宅医療を普及するために必要なこと



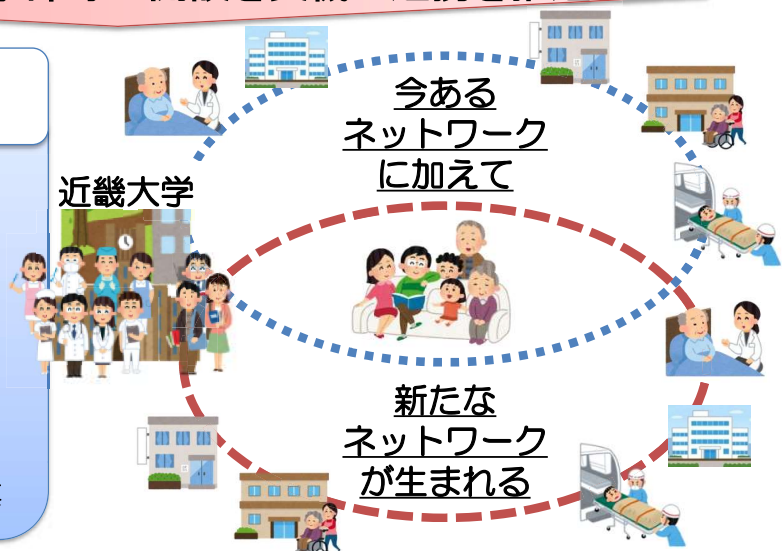
求められる医療連携体制 ～医療機関等のネットワーク～



さらに、近畿大学医学部等の開設を契機に連携を推進

新近畿大学医学部附属病院の機能（計画）

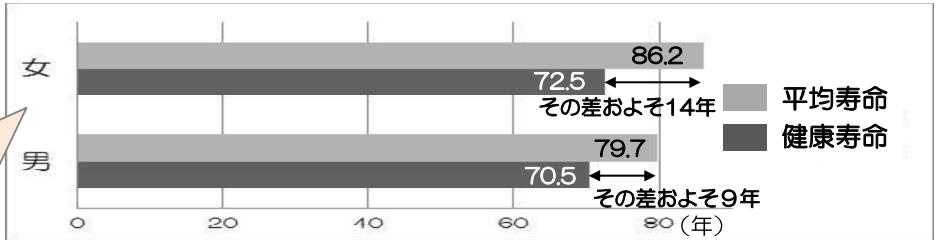
- 南大阪地域唯一の特定機能病院として、高度先進医療を提供する。
- 診療科目：34診療科目
 - 病床数：800床
 - 基幹病院としての役割
 - ・三次救急医療機関
 - ・災害拠点病院 等



○平均寿命と健康寿命

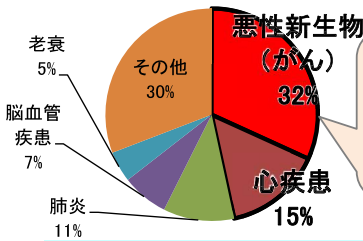
健康寿命とは、「日常生活に介護を必要としないで、自立した生活ができる期間のこと」(WHOより)

いつまでも自分らしく、いきいきと健やかに暮らすためには、健康寿命をのばし、平均寿命との差(9～14年)を短くすることが大切!



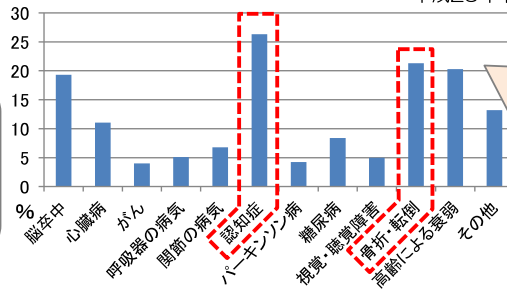
平成25年平均寿命と健康寿命(大阪府)

○健康寿命が短くなる原因



堺市民が死亡に至った主な疾病 (平成28年人口動態統計)

生活習慣が深く関与する「がん」、「心疾患」による死亡が多い!



堺市民の介護・介助が必要になった理由 (平成26年度堺市高齢者等実態調査)

不規則な食生活や運動量の低下が深く関係する「認知症」、「骨折・転倒」により、介護を必要とする人が多い!

健康寿命の延伸には、検診などで体の健康状態を知ることや、生活習慣を改善することによる疾病や介護の予防が重要です。

近畿大学医学部との連携により、健康寿命をのばします!



○堺市健康増進計画 健康さかい21(第2次)【平成26年3月策定】から

基本方針 元気でともに生きる「健康都市・堺」をめざして

●死亡原因や要介護状態に至る疾病を予防し、健康寿命をのばします。

○がん、心疾患等の循環器疾患は、生活習慣の改善や運動習慣の定着により予防が可能です。

また、検診などによる早期発見で早期治療・早期回復が可能です。

堺市では、生活習慣病を予防するために3つの生活習慣の実践とがん検診などの健康チェックを進めています。

あるく



しゃべる



たべる



健康チェック



さらに、近畿大学医学部と連携した取組を推進

○今より、10分多く身体を動かせる環境を創出します。

○健康講座やイベントに参加でき、社会と関わる機会を創出します。

○身近な場所で、食生活を見直す機会を創出します。

○がん検診などの健康チェックをしやすい環境を整備します。

⇒市民とともに、健康状態を保ち、

がん・心疾患・認知症・転倒・骨折等の予防を推進します!



幅広い世代が住み、集い、学び、働き、将来にわたり持続可能なまちへ！

○堺市、泉北ニュータウンにおける人口誘導効果、雇用創出効果

	定住人口	年間雇用創出数
堺市全体	1,317人増	4,510人増
泉北ニュータウン	1,108人増	1,000人増

2017年7月 (公財)堺都市政策研究所試算

○泉ヶ丘駅前地域における交流人口の増加

1日あたりの交流人口
5,790人増

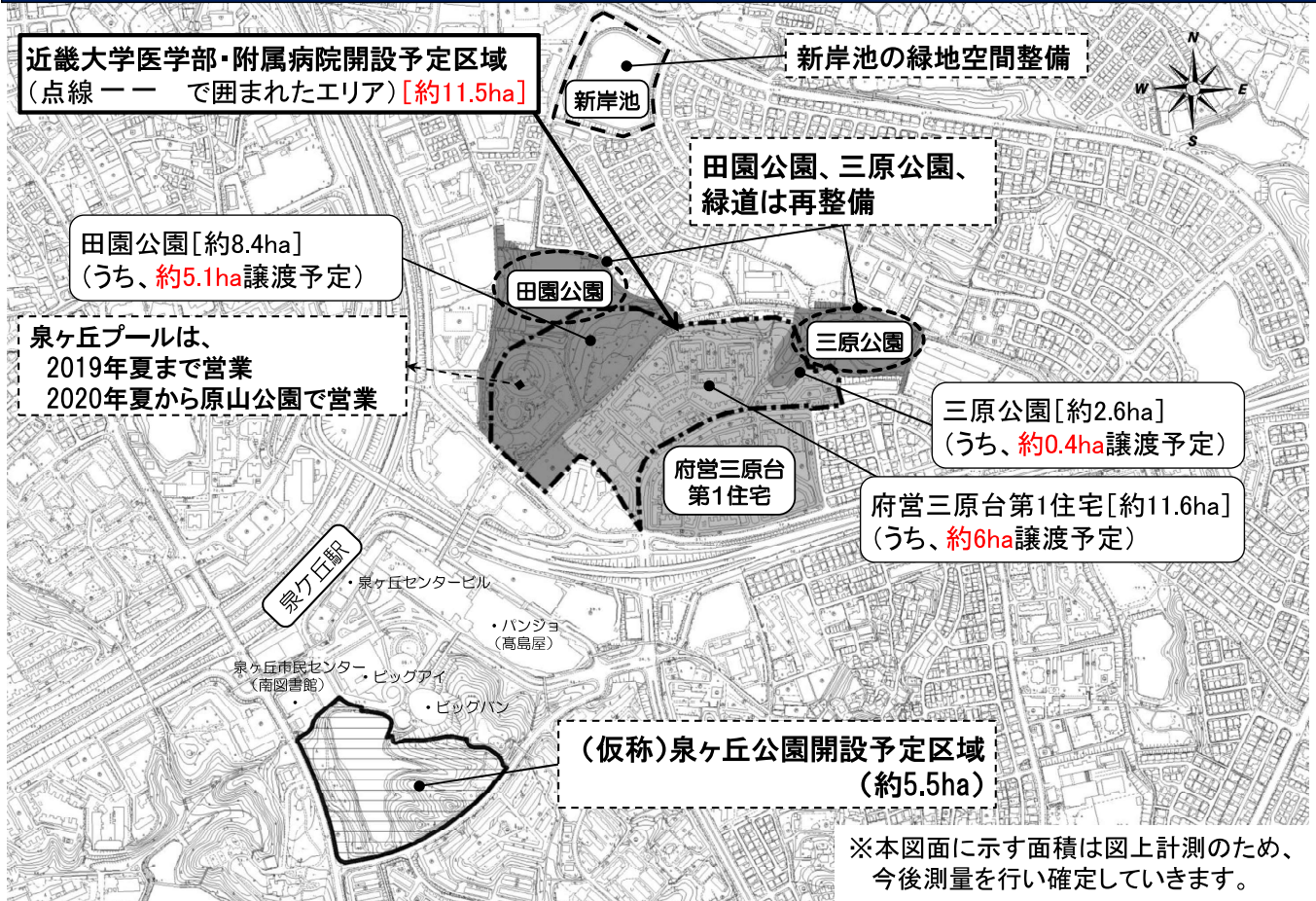
2017年7月 (公財)堺都市政策研究所試算

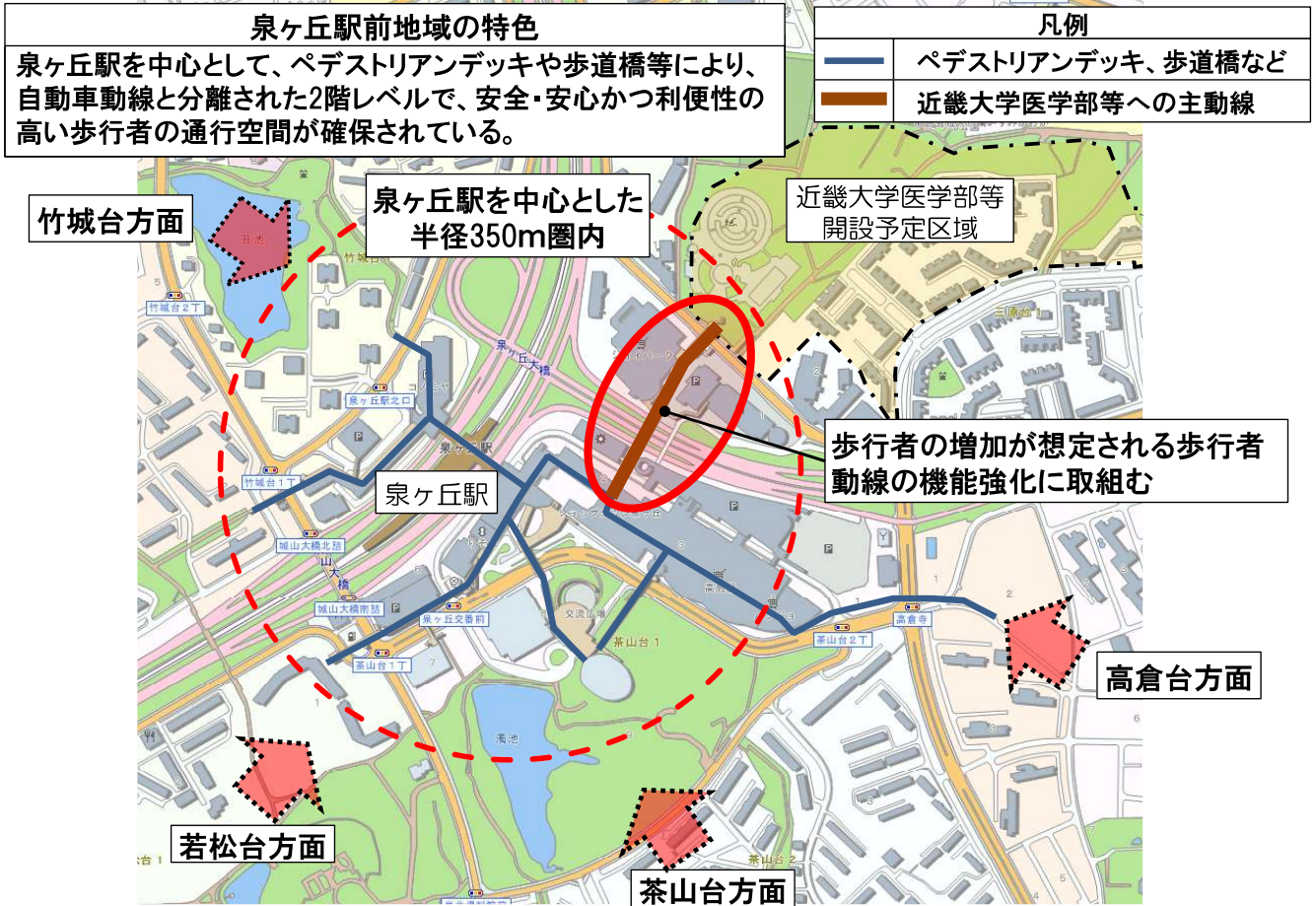
賑わい・活力の創出

子どもから高齢者までの幅広い世代が元気で、住み、集い、学び、働ける泉北ニュータウンへ！

SDGs未来都市・堺
持続可能なまちへ！

近畿大学医学部・附属病院の開設予定区域について





■ 泉ヶ丘駅と三原台方面を結ぶ歩行者動線



<整備方針>

泉ヶ丘駅と三原台方面を結ぶ歩行者動線（堺市管理区間）の機能強化を図る。

<参考> 泉ヶ丘駅南側エレベーター

☆有効幅員（6.0m以上）を確保し、安全・安心な通行空間を創出します。

☆エレベーター設置を行う等、バリアフリー機能を強化し、利便性の向上を図ります。

☆耐震機能を強化し、安全・安心な通行機能を確保します。

